

児童・生徒に対する水難事故防止に向けた取組について



正和会
石川 義郎 議員



質問 全国の水難事故件数は年々微増傾向にある。本市での水難防止に対する認識と取組みを伺う。

教育長 本市は多摩川が身近にあり、川遊び等の危険性についての安全教育が極めて重要と考える。教育委員会では、大型連休前や夏季休業月前に通知文を発送し、安全指導の

徹底を図っている。また、市内小学校では、着衣のまま水に落ちた場合の対処方法を学ぶ着衣水泳体験を実施している。今後も指導内容や実践事例を共有し、安全教育の充実を図る。

質問 着衣水泳は小学校で行っているが、事故も踏まえ中学校でも体

験の機会を増やすべきではないか。

教育部参事 学習指導要領解説では、小学校5・6年の体育で着衣泳を積極的に取り扱うよう示しているが、中学校では任意の扱い。また靴を含め衣服を着用しプールに入るため、衛生面から多くは行えない。実施については校長会と意見交換したい。



▲市内河川敷の入り口に掲示されている水遊びに対する注意看板

木育について



公明党
青木 健 議員



質問 木育とは、子どもの頃から木を身近に使うことで、人と木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むと定義される新たな教育で、国も木材への親しみや木の文化への理解を深めるとして推進している。環境問題にも寄与する木育について、本市の考え方を伺う。

市長 就学前の子どもには、平成30年度に市内8施設が都の補助金による園外活動「森と自然を活用した保育推進事業」を行ったほか、園舎への木材使用など日頃から自然との関わりを大切にしている。小学生以下の子どもが対象の事業では、観光案内所くるみるふっさで福生災害ボ

ランティアチェーンソー隊を講師にのこぎり体験など親子参加イベントを開催。一般市民には、今年度のふっさ環境フェスティバルで森林の講座や多摩産材製スマホスタンドの配布、木工製品の展示販売を行った。今後も新型コロナウイルス感染症を注視の上、木育事業を推進したい。



▲観光案内所くるみるふっさが開催した木育体験イベントの様子

新型コロナウイルス感染症に関連した子どもや保護者への対応について



生活者ネットワーク
三原 智子 議員



質問 保育園等で臨時休園となる際に、家庭が孤立しないためどのような支援をしているのか。虐待の疑いや支援が必要な家庭にはどう対応しているのか。また、市は園に対しどのような支援をしているか伺う。

市長 ある保育園は、臨時休園中に保育士が子どもとビデオ通話をす

る等の工夫をしたと聞く。保育園は臨時休園中もPCR検査等業務に追われることから、市は文書作成や保健所との調整など最大限に事務を支援する。児童虐待等には、子ども育成課と子ども家庭支援課が情報を共有、状況に応じ支援する。今後も保育園や市民の後方支援を徹底して行う。

質問 子どもたちに影響がないよう各園において工夫したことを他の園と共有することが有効ではないか。

子ども家庭部長 市内保育施設等で感染が発生した際は、毎回他の施設に状況等の情報共有を図っている。この機会を利用し、好事例等も共有し、適切な保育に努めたい。



▲市内保育園における新型コロナウイルス感染症対策

特定外来生物クビアカツヤカミキリについて



正和会
串田 金八 議員



質問 本市における特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害状況について伺う。

市長 本市では平成27年7月に多摩川堤防沿い桜並木で成虫が発見され、30年度に専門家へ被害状況の調査を依頼、多摩川堤防沿い桜並木を中心に被害が確認された。市内全

域では、桜並木を含めた青梅線以西の被害が顕著で、青梅線以東でも一部被害が出ている。対策として、樹幹注入剤、薬剤散布等を実施。被害が顕著な場合はネット巻きを行い、羽化した成虫が飛翔することを防止し、被害の拡散を防いでいる。あわせて、桜並木にある全266本の木に

対して、成虫の捕獲作業と、新たな被害がないかの確認作業を福生市シルバー人材センターに委託。そのほか、職員による見回りを実施。また、市広報やホームページ、回覧やチラシ、市民説明会の開催など積極的な周知も行っているが、現時点では駆逐には至っていない。



▲クビアカツヤカミキリの成虫とネット巻きを行った被害木

新型コロナウイルス感染症に伴う職員体制について



正和会
小林 貢 議員



質問 緊急事態宣言発出以降の勤務体制の現状と、市民サービスや事業への影響について伺う。

市長 昨年4月の宣言以降、職員は交代制在宅勤務とした。宣言中等は時間外開庁は休止するが、窓口業務は通常どおり行い、市民サービスの根幹をなす事業も縮小せずに実施

している。ワクチン接種事業や国や都の交付金を活用した各種支援も実施しており、市民サービスや事業への影響は最小限と考える。

ごみ出し困難者への支援について

質問 高齢者や障害者など、玄関先へごみを持ち出せない「ごみ出し困難者」の把握と支援について伺う。

市長 家庭ごみのごみ出し困難者は、日常生活の支援も必要なことから、介護福祉課や地域包括支援センター、障害福祉課が把握し、介護保険制度や障害者総合支援法の範囲で対応。粗大ごみの場合、リサイクルセンターへの申込み時に福生市シルバー人材センターを紹介している。



▲シルバー人材センターによる粗大ごみ運び出しの様子

保育施設等における新型コロナウイルス感染症対応について



正和会
佐藤 弘治 議員



質問 保育関連施設等において感染が発生した際、施設や市はどのような対応をするのかを伺う。

市長 園児や職員に感染が確認された場合、市と施設側で早急に協議し、その後の対応を決定。必要に応じて保健所の疫学調査の補助等も行うなど機動的に対応する。施設からは、

可能な限りその日中に発生の事実や翌日からの体制等を保護者にお知らせする。濃厚接触者等が翌日に登園し感染拡大することを防ぐため、できるだけ早い通知を心がけている。

社会福祉協議会の充実強化について

質問 市制とともに社会福祉協議会も50周年を迎えた。社協を充実強

化させることについて、所見を伺う。

市長 社協の充実強化のための市の役割としては、①法人地域社会福祉協議会補助金等の財政的支援、②職員派遣や受入れの人的支援、③福祉センターの指定管理者とする施設等の支援がある。今後も連携を強化し、地域福祉を共に推進したい。



▲福生市社会福祉協議会(福祉センター内)